

危険予測学習の進め方(例) - 信号機のある交差点の危険 -

学習内容	指導上の留意事項等
<p>①交通状況の読み取り (個人～発表)</p>	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (交差点の状況、歩道歩行者の状況、自転車の状況など) ・生徒に次のような状況を読み取らせる。 学校に行く途中、交差点の横断歩道を渡ろうとしている。右側に左折・右折の車があります。また、歩行者もいる。急いでおり、歩行者用の信号が青なので、スピードが出たまま、横断歩道を渡ろうとしている。
<p>②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)</p>	<p>このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・手を挙げるなど、こちらが運転者によく見られるようにしても、運転者は、他の車両の動きに気をとられていたり、急いでいるため、十分な確認をせず、自転車を見落としてしまうことがあることを予測させたい。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大(大変)だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
<p>③回避方法の考察</p>	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
<p>④まとめ</p>	<p>これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 <p>例:「歩道では徐行。必要あれば一旦停止」「右左折の車をしっかり観察」等</p>

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

<p>安全上の望ましい行動</p>	<p>① 信号機のある交差点でも多くの事故が起きる。横断歩道の信号が青であっても、左折や右折してくる車両があり、横断する歩行者や自転車は、必ずしも安全とは限らないので、十分注意する。</p> <p>② 左折車の運転者は、交差点内の右折待ちの車両や他のことに気を取られて、横断歩道の通行者を見落とす危険がある。 このため、運転者が気付くよう手で合図したり、アイコンタクト(目と目で見合うこと)したりし、自分の存在を運転者に知らせ、安全を確認して横断する。</p> <p>③ 右折車両の運転者は、左折車両の陰にいる横断歩道の通行者に気付かないまま、左折車両の後に続いて走行する傾向がある。 このため、左折車両だけでなく、右折車両の動きにも注意して、安全確認を徹底する。</p> <p>④ 横断歩道では、自転車は、他の歩行者の迷惑にならないようにする。(教則第3章第2節1(5)参照)(注:教則=交通の方法に関する教則(以下同じ。))</p>
-------------------	--